

# 2024年度 自己評価結果公表シート

富山短期大学附属みどり野幼稚園

## 1 本園の教育目標

1. 心も体も健康でいきいきとした子ども
2. 自分の思いや考えにもとづいて、園の生活に取り組む子ども
3. 友だちと共に園の生活を楽しみ、意欲的に行動する子ども
4. 身近な自然や人とのかかわりに心を動かし、感じたことや考えたことを素直に表現する子ども

## 2 本年度、重点的に取り組む目標・計画

コロナ禍を経て日常の活動が回復する一方で、少子化や地域のつながりの変化、デジタル化の進展など、保育や子育て支援のあり方が問われている。こうした社会の変化に対応しながら、幼児期にふさわしい豊かな経験を保障する。また、次の2点を重点課題とする。

1. **多様な個性に応じた保育の実践** — 一人ひとりの発達や興味に応じた柔軟な保育の実践
2. **ICT活用のさらなる推進** — 保育の質向上と子育て支援の強化

### <昨年度の公表シートから：2024年度に取り組むべき課題>

- ① 健康で安全な生活の保障（継続）  
自然及び社会の状況を的確に判断し、子どもの安心と安全を守る保育に必要な環境をつくる。また、様々な災害等に備えた計画や訓練を行う。
- ② 多様な個性に応じた保育の提供  
園内外での職員の協働性を高めながら、一人一人の個性を生かし、集団としての経験の質を高める保育を検討し、提供する。
- ③ ICT活用による保育の充実と子育て支援（継続）  
子どもの直接体験を重視しながら、ICTを保育に効果的に取り入れていく。また、保護者への情報発信・情報共有だけでなく、職員の業務改善ツールとして、ICT活用を進める。
- ④ 社会ニーズに対応した園運営のあり方を検討する  
多様な人・機関から知見を得て、新しい園運営のあり方を検討する。

## 3 評価項目の達成及び取り組み状況

### ① 園運営

ポストコロナの日常生活の回復の中、子どもの安心と安全を守る環境づくりに留意した運営を行った。2号認定こどもや満3歳児受け入れに対応して職員も増えたが、職員間の協力体制については、情報を可視化して共有するなどの工夫を行い、コミュニケーションの充実に努めた。  
保育の充実と安定した園運営のために、県・市の補助金の活用を図った。園児確保や多様な保育ニーズへの対応については、定員の見直しの可能性も含めて、将来構想の検討を進めた。

### ② 教育課程

継続してきた「教育課程」研究に基づき、幼児の姿を生かした計画作成に取り組んだ。ウェブ図の活用については、持続可能な計画作成及び記録のスタイルの検討を行った。  
「幼児期に育てたい10の姿」を意識したねらいと内容の計画と実践の振り返りを行い、PDCAサイクルとOODAループの充実に努めた。

### ③ 幼児理解

子どもの思いに寄り添い、丁寧に関わることで幼児理解に努めた。ウェブ図を活用した対話を通して、個々の子どもの理解を職員間で共有した。多様な園児たちについて、共通理解に基づい

た保育実践と振り返りを行うことで、専門機関との連携を図りながら、個別的配慮が必要な子どもの支援を充実させるように努めた。

#### ④ 保育実践

園児の主体的な経験を尊重し、日々の保育や行事運営に取り組んだ。園庭での野菜づくりなど様々な活動において、年少児が年長児の姿に刺激を受けて、自分たちの活動を展開するなど、異年齢の交流が自然に生まれる機会がいくつも生まれた。

ウェブ図を用いた記録と計画作成を通して、保育内容の振り返りや保育のねらいの精査を行った。多様なニーズをもつ園児が、個として充実しながら集団としての経験を楽しめるように、運動会やこども劇場などにおける活動の見直し・工夫に、職員が協働して取り組んだ。教育時間終了後の保育については、発達段階に合わせたグループ編成や保育内容の工夫により、安定した生活時間となるように努めた。

#### ⑤ 健康・安全

短大健康支援センターと連携して、感染症対策や健康支援を実施した。食物アレルギーへの対応については、富山市作成の生活管理指導表を活用するなど、保護者と子どもの健康に関する課題意識を共有する取り組みを行った。園バスの安全確保や園内外での事故予防、子どもの人権を尊重した保育の実施に向けた検討と対処を重ねた。自然災害や不審者への対策についても、計画や訓練を行った。

#### ⑥ 子育て支援

全ての保護者が保育参加の機会を得ることができるよう、個々の事情に応じた柔軟な実施に努めた。親子サークル活動を継続し、地域の子育て家庭を支援した。満3歳児入園のニーズへの対応について検討を行った。

歴史ある「父親の会」を「父母を問わず、互いに力を合わせて、子どもたちのために活動する」保護者の集まり「ぺんぎん組」へと名称変更して、園庭整備や遊び大会が実施された。

#### ⑦ 職員の研修及び資質向上

全職員がウェブ図を活用した週月案作成に取り組み、共通理解と対話を促進した。新採研修やミドルリーダー研修など、それぞれの資質向上につながる機会を得た。特に、本年度は、園庭環境の充実をテーマに、県外研修（学会参加）と園内研修を行った。

#### ⑧ 地域との交流（学園内交流含む）

地域との交流行事（獅子舞、ちびっこ火の用心隊など）や学園内交流（大学東黒牧キャンパス利用、大学・短大合同大学祭への参加、高校野球部との交流など）を積極的に行った。地域の施設訪問や地域企業との交流、大学・短大生との交流などを実施した。子どもたちが社会生活とのつながりを深く感じる経験を重視した。

#### <全体的な評価>

本年度は、「子どもにとって大切なこと」を念頭に置きながら、重点課題である「多様な個性に応じた保育の実践」に注力して保育運営を行った。幼児理解と保育実践の振り返りを、チームとして対話を重ねることで深め、個の充実と集団としての豊かな経験の保障に努めた。「ICT 活用」については、保育や保護者アンケート、ブログ発信等で行ってきたが、今後は保護者との情報共有や書類提出等への活用を検討していきたい。

近年は、子どもの安全や安心を支える保育への社会的要求が一層高まり、本園でもバス運行の安全確保や園内外での事故予防、子どもの人権を尊重した保育の実施に向けて、具体的な検討と対処を重ねてきた。保護者アンケートの内容からは、保護者への情報発信・情報共有のあり方において改善すべき点が見られた。改めて園体制の充実を図り、子どもと家庭、園（職員）が、互いに安心して信頼関係を育み、質の高い保育・教育を提供できるよう努めていきたいと考える。

## ＜次年度に取り組むべき課題＞

- ① **健康で安全な生活の保障**
  - 自然災害や感染症、不審者対応など、より広範な安全対策を強化するとともに、具体的な計画や訓練の実施、保護者との情報共有を図る。
- ② **多様な個性に応じた「環境を通して行う保育」の充実**
  - 園内外の専門機関との連携を強化し、職員の専門性向上を図りながら、一人一人の個性に応じた丁寧な保育を実践するとともに、豊かな経験を保障するための保育環境の充実を図る。
- ③ **ICT 活用による保育の充実と子育て支援**
  - 保育活動への効果的な ICT 活用を進めるとともに、保護者への情報発信・共有の質を高め、職員の業務効率化にも資する活用方法を検討する。
- ④ **社会ニーズに対応した園運営のあり方を検討する**
  - 保護者や地域社会のニーズを的確に把握し、多様な意見を取り入れながら、持続可能な園運営のあり方を検討する。特に、満3歳児の入園ニーズ、預かり保育の充実、保護者会のあり方などについて、具体的な検討を進める。

以上の自己評価と保護者アンケートの結果をふまえて、2回の関係者会議（3/10、3/21）を行い、本園の課題や対応について話し合いました。会議でのご意見を参考に、全体的な評価や次年度に取り組む課題の見直しを行っております。

保護者の皆様や関係者の方々のご意見を活かし、2025年度の園運営にあたりたいと思います。今後とも引き続き、ご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

2025年3月31日

富山短期大学附属みどり野幼稚園  
園長 宮田 徹